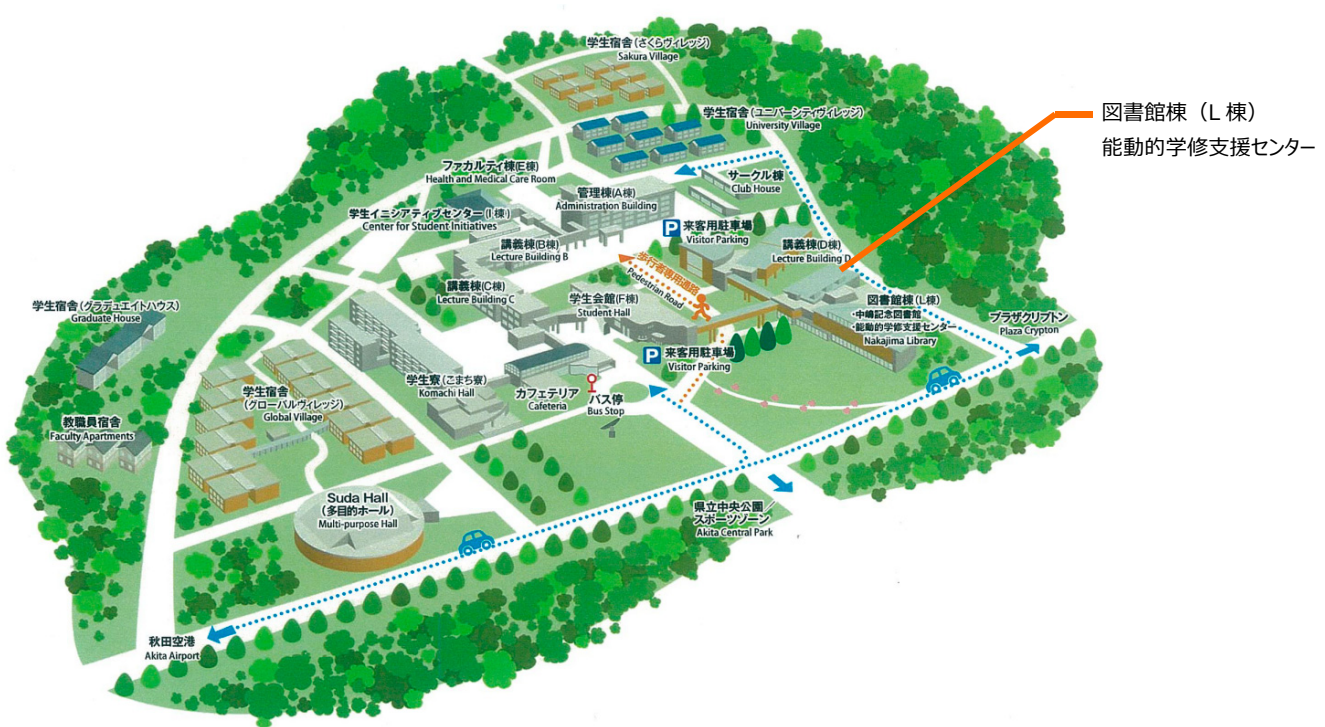


配置図



平面図 (言語異文化学修センター、学修達成センター)



整備概要

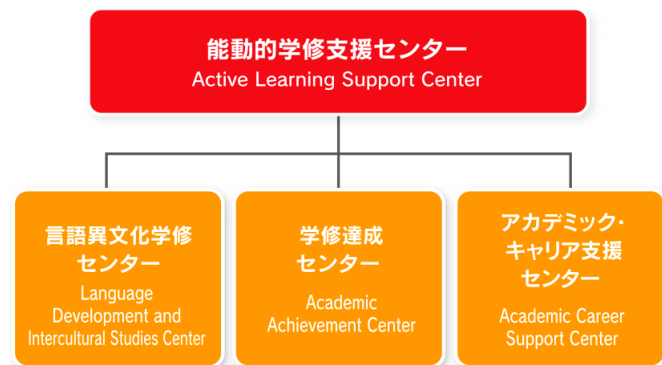
| | | | |
|-----------|---------------------------------|----|---------------|
| 施設名称 | 国際教養大学 中嶋記念図書館 (L棟) | | |
| 利用対象 | 国際教養学部 899名、教員 64名、一般利用可 | | |
| 設置年度 (工期) | 平成 20年 3月 (平成 19年 2月～平成 20年 3月) | | |
| 整備手法 | 新築 (平成 20年) | 構造 | 木造一部鉄筋コンクリート造 |
| | 改修 (平成 25年) | | |
| 階数 | 2階 | | |
| のべ床面積 | 3,984.19㎡ (図書館全体) | | |
| 整備費用 | 1,225,350千円 (図書館全体) (県補助金) | | |
| 設計 | 環境デザイン・コスモス共同企業体 | | |
| 施工 | 大木・沢木・足利・石郷岡・互大異業種協同企業体 | | |

整備内容

・整備のポイント

3つのセンターで構成される能動的学修支援センター

能動的学修支援センターは、学生の自律学修と自己効力感の育成を支援することを目的とし、外国語の自律学修を支援する言語異文化学修センター、ピア・サポートを提供する学修達成センター、大学院進学を支援するアカデミック・キャリア支援センターの3つのセンターで構成されている。



言語異文化学修センター

・空間のコンセプト

1. 学生が自然と足を運びたいようなオープンでリラックスできる空間
2. 機能的でありながら、楽しさがある家具やインテリアの採用
3. 木造建物との調和

・充実した学修設備

多目的ルーム (6 室)

グループワークに適した個室で、グループ討議のほか、プレゼンテーションの練習、会話、発音など多目的に利用できる。前面（入り口側）は開放感のあるガラスの間仕切り。

設備：PC、インターネット、海外衛星放送、DVD・VCD、Skype

スピーキングルーム (12 室)

防音機能を備えた 2 人用の個室で、お互いに確認しながら発音練習やリスニング練習を行う。前面（入り口側）は開放感のあるガラスの間仕切り。

設備：PC、インターネット、DVD、MD・CD

DVD プース (16 席)

映画や海外衛星放送などを使った語学学修のほか、インターネットでの情報収集もできる。1 席ごとの仕切りが付いている。

設備：PC、インターネット、海外衛星放送、DVD、プリンタ

リーディングラウンジ (24 席)

窓の外に広がる自然豊かな景色を見ながら、ゆっくり読書できる 1 人用ソファが置かれたラウンジ。

オープン学修スペース (18 席)

学修ブース (4 席)

豊富な学修教材

41 言語について、DVD、リスニング・スピーキングソフト、小説、教本、語学検定試験対策本など様々な媒体の教材から、自分に合ったレベルの教材を選び学修ができる。

アラビア語、イタリア語、インドネシア語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、広東語、カンボジア語、ギリシャ語、スウェーデン語、スペイン語、スロヴェニア語、スワヒリ語、タイ語、台湾語、タガログ語、タミール語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トルコ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒンディー語、フィンランド語、フランス語、ベトナム語、ヘブライ語、ポーランド語、ポルトガル語、マルタ語、マレー語、モンゴル語、ラテン語、ラトヴィア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語

学修達成センター

| | | |
|-----------|-----------|--|
| 個別学修支援 | チューター | 研修またはチューティング科目を終了した大学院生、学部生による個別学修支援（要予約、1 回 60 分、週 2 回まで） |
| ワークショップ形式 | 集中ワークショップ | 個別学修支援とは別にライティング、TOEFL-ITP、プレゼンテーション等についてワークショップ形式でチューターが集中的にアドバイス |

アカデミック・キャリア支援センター

| | |
|----------|---|
| 進学相談対応 | 以下の個別またはグループでの相談に対応 ・大学院進学のメリット・デメリット ・留学前後、留学中の学修計画 ・大学院での学修や生活 ・費用、奨学金 ・出願支援 |
| 特別講演、講習会 | 大学院での研究および終了後の進路などについて幅広く理解する機会として毎学期開催 |

能動的学修支援センター以外の学修スペースについて

1 年次の寮生活を終えた後も学内の寮やアパートで暮らす学生が 90%を超えており、ほとんどの学生が 1 日の大半を学内で過ごす。学生の学修スペースとして、能動的学修支援センター以外にも、以下のような環境が整備されている。

・24 時間 365 日開館の図書館

「いつでも勉強ができる環境を提供したい」という大学の思いが込められた図書館は、「本のコロセウム」をテーマとした半円形のユニークなデザインとなっている。学生や教職員は 24 時間 365 日利用可能となっており、図書利用に限らず、早朝、深夜にも利用できる学修スペースとして活用されている。

・通常講義室は全てラーニングコモンズとして開放

能動的学修支援センターや図書館では難しいフレキシブルな学修環境として、授業に使用していない通常講義室は、学生もオンラインで予約をして自由に利用できるようにしている。

・運営・管理

カリキュラムとの連携

国際教養大学では、入学時の英語能力に応じた「英語集中プログラム（EAP）」により、英語で学ぶための英語力を養成する。EAP のカリキュラムには、授業の補正として「自主言語学修」が含まれている。LDIC には必要な教材や環境が準備されており、春学期、秋学期には 60 時間以上、冬学期には 30 時間以上（※）の LDIC での学修時間確保が課されている。

（※学修時間数の情報は平成 27 年度時点のもの）



学び合いの仕組み

学修達成センターでの学生による個別学修支援が行われている。

また、短期留学生と日本人学生がペアを組み、互いの言語や文化について学ぶ「会話パートナー」プログラムを実施。

計画・設計プロセス

・整備の背景

国際教養大学は、「国際的に活躍できる人材を育成する世界水準の大学」を目指し2004年に開学。卒業要件に1年の海外留学を課し、新入生は1年間外国人留学生との寮生活をする、全ての授業を英語で行う、少人数教育の徹底など、国内ではユニークな教育方針で注目を集めた。

国際教養教育において、「英語で学び、英語で考える」ツールとなる英語力を身につけるには、個々の学生の英語能力や興味関心を踏まえた自律的学修が必須であるとの考えのもと、世界各国から留学生が集まる環境を活かした異文化学修の側面を併せ持つ形で言語異文化学修センター（LDIC）が2008年に設置された。その後、LDICとは別に、ピア・サポートの取組が始まった（学修達成センター（AAC））。

2012年10月、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の採択を受け、その事業の一つとして、LDIC、AACに加え、大学院進学を支援するアカデミック・キャリア支援センター（ACSC）を新設、3つのセンターで構成する学生の自律学修と自己効力感の育成を支援することを目的とした能動的学修支援センターを2013年9月に開所。

整備後の評価と今後の展望

・整備の評価

EAPのクラス分けの目安や修了、留学の要件の一つとしてTOEFLが位置づけられているが、LDICではTOEFL対策の教材も配置、AACではTOEFL対策のピア・サポートが行われており、顕著な効果が現れている。

・整備後の改善

利用者からの評価はアンケートも実施しているが、受付カウンターに直接要望が寄せられることも多い。これまでに教材への要望、Skypeを使えるようにする等の環境整備への要望をはじめ、開館時間の延長や、利用希望のタイミングが重なりやすい多目的ブースの利用時間制限等について対応をしている。

・今後の展望

2014年、文部科学省の「スーパーグローバル大学育成支援事業」の採択を受け、10年をかけて「日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジ構想」への取組を行う。

取組の一例

- ・現在も全学生の90%が学内の寮やアパートで留学生と混住しているが、今後「教育寮」としてテーマ別ハウス群を導入予定であり、24時間リベラルアーツ教育を推進。
- ・海外提携大学との単位互換可能な講義を更に充実していく予定。